

2014年1月21日
株式会社日立製作所

暗号化したままデータ分析を行う秘匿分析技術を開発 ビッグデータ分析業務委託時の情報漏えいリスクを低減

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)は、このたび、暗号化されたデータを復号化することなく、頻度集計、相関ルール分析^(*1)が可能な秘匿分析技術を開発しました。具体的には、高速検索可能暗号方式^(*2)を応用することで、10万件規模の暗号化されたデータに対して約10分で相関ルールの分析を可能にするとともに、暗号化されたまま分析処理を実行するため、分析受託者による盗み見や持ち出しなどの情報漏えいリスクの低減を実現しました。

近年、医療や購買履歴、位置情報センサーなどの大量のデータから隠れた価値を抽出するビッグデータ分析が大きな注目を集めています。それに伴い、分析のノウハウを持たない事業者が外部組織に分析業務を委託する分析委託サービスが活用されるようになってきました。しかし、機密性の高い自社データの分析業務を外部組織に委託する場合、情報漏えいリスクが懸念され、ビッグデータ利活用の妨げとなっていました。そこで今回、日立は暗号化されたデータを復号化することなく、頻度集計、相関ルール分析が可能な秘匿分析技術を開発しました。開発技術の特徴は以下の通りです。

(1) 秘匿分析技術の開発

日立が2012年3月に開発した検索キーワードとデータベースを暗号化したまま検索できる高速検索可能暗号方式を応用し、複数の分析キーワードが暗号化データベース中に出現する頻度を求め、それらを比較して相関ルールを調べる秘匿分析技術を開発しました。

(2) 実用的な高速性を実証

本技術で用いた高速検索可能暗号方式は、共通鍵暗号^(*3)をベースに設計されており、公開鍵暗号^(*4)をベースとする検索可能暗号方式に比べ約1000倍の速度で分析処理を行います。汎用PC(CPU: Intel® Core™ i7-3820、メモリ: 32GB 搭載)を用いた実験では、1台のPC上で10万件規模の暗号化データに対して、約10分で相関ルール分析を完了し、実用的な時間で秘匿分析が実現出来ることを実証しました。

本技術において、分析受託者は暗号化された分析対象データと分析用クエリ(命令)のみを用いて、元のデータを見ることなく相関ルール分析を実行します(図1)。暗号化されたまま分析

*4 公開鍵暗号:暗号化の鍵を公開しても安全性が確保できる暗号方式を公開鍵暗号と呼びます。鍵の管理が容易な反面、共通鍵暗号よりも処理が複雑になる傾向があり、暗号化、復号化により多くの計算資源を必要とします。

Intel、Intel Core は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

■照会先

株式会社日立製作所 研究開発本部 技術統括センタ [担当:吉田]

〒244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町 292 番地

電話 050-3135-3409 (直通)

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
